

令和元年11月29日

北名古屋市議会議長
永津正和 様

北名古屋市議会 市政クラブ

会長 神田 薫



視察・研修報告書

政務活動費により視察・研修のため出張いたしましたので、下記のとおり報告
します。

記

| | | |
|-------|---------------------------------------|--------------------------------------------------------------------|
| 参加議員名 | 【北名古屋市】市政クラブ・公明党、【豊山町】飛翔会 (別紙のとおり) | |
| 日程 | 令和元年11月11日(月)～11月12日(火) | |
| 月日 | 視察・研修先 | 視察・研修概要 |
| 11・11 | 石川県金沢市 | 大規模災害時における対応について(陸上自衛隊金沢駐屯地) |
| 11・12 | 富山県富山市 | 公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトな街づくりについて(富山市役所) 災害対策の拠点について(富山県広域消防防災センター) |

| | | | | | |
|----------|----------|----------|--------|-----|-----|
| 経費合計 | 交通費 | 宿泊費 | 土産代 | 参加費 | その他 |
| 348,070円 | 195,350円 | 143,000円 | 9,720円 | 円 | 円 |

行政視察参加者名簿

| 市政クラブ 11名 | | 備 考 |
|-----------|--------------------------------------------------|-----|
| 会 長 | <small>かんだ</small> 神 <small>かおる</small> 田 薫 | |
| 幹 事 長 | <small>いのうえ</small> 井 上 <small>かずお</small> 一 男 | |
| 政調会長 | <small>しみず</small> 清 水 <small>こうじ</small> 晃 治 | |
| | <small>さわだ</small> 沢 田 <small>さとし</small> 哲 | |
| | <small>おおの</small> 大 野 <small>あつし</small> 厚 | |
| | <small>かつらがわ</small> 桂 川 <small>まさのり</small> 将 典 | |
| | <small>ながつ</small> 永 津 <small>まさかず</small> 正 和 | 議 長 |
| | <small>わたなべ</small> 渡 邊 <small>さちこ</small> 幸 子 | |
| | <small>ふくおか</small> 福 岡 <small>やすし</small> 康 | |
| | <small>くまざわ</small> 熊 澤 <small>ますみ</small> 真 澄 | |
| | <small>あさり</small> 浅 利 <small>きみえ</small> 公 恵 | |

視察報告書

北名古屋市議会 市政クラブ
文責：清水晃治

- 開催日程：令和元年11月11日（月）～11月12日（火）
- 視察訪問先：11月11日（石川県金沢市）、11月12日（富山県富山市）
- 工程表：

| | | | | | |
|-----------------|---------------|---------------------------|---------------|--------------------------------|--------------------|
| 11月11日 (1日目) | 東庁舎 (集合) | → (バス) → 7:45発 11:30着 | 金沢駐屯地 (視察) | → (バス) → 16:30発 17:00着 | ホテル 【金沢市内】 |
| 11月12日 (2日目) | ホテル 【金沢市内】 | → (バス) → 8:30発 10:00着 | 富山市役所 (視察) | → (バス) ※昼食含む→ 11:30発 13:30着 | 広域消防防災センター (視察) |
| | | → (バス) → 14:30発 18:30着 | 東庁舎 (解散) | | |

● 11月9日（月）陸上自衛隊金沢駐屯地【金沢市】

1. 目的

大規模災害時における対応について視察

2. 総括

南海トラフ地震発生時に、北名古屋市を含む愛知県尾張地区の救援・復興にあたる部隊は、陸上自衛隊金沢駐屯地の隊員であることから視察訪問を行い、隊構成や活動内容などを学ぶと共に、北名古屋市の地形等についても情報を共有した。

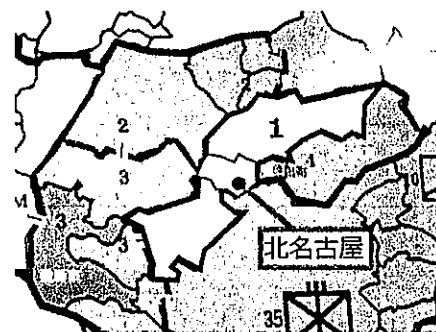
管轄する自治体からの訪問は初めてであり、防災について真剣に取り組んでいる北名古屋市の姿勢を、大変好意的に受け入れて頂いた。

なお、梨木連隊長からは『来年度、担当する中隊を北名古屋市に派遣し、災害対応に必要な情報を調査する歩行訓練を行いたい』との提案も頂いた。双方がお互いの現況を知り・改善に努めることが、有事の際の確実で迅速な対応に繋がるため、今後も継続的な情報交換が必要と感じた。



3. 部隊と担当区域

| 部隊名 (派遣予想人員数) | 担当区域 |
|------------------|------------------------------|
| 第1中隊 (約120名) | 小牧市、岩倉市、清須市 北名古屋市、あま市、大治町 |
| 第2中隊 (約120名) | 一宮市、江南市、扶桑町 大口町 |
| 第3中隊 (約120名) | 稲沢市、津島市、愛西市 弥富市、蟹江町、飛島村 |
| 第4中隊 (約120名) | 春日井市、豊山町 |



4. 災害派遣の実績

近年は毎年のように自然災害が発生し、自衛隊は復旧・復興支援にあたっている。南海トラフ地震においては30年以内の発生確率が70～80%に引き上げられ、また、北名古屋が位置する尾張地区で甚大な被害をもたらした濃尾地震からは128年が経過している。以上のことから、近い将来に大規模地震が発生することは避けられない状況であり、行政としては自衛隊も含めた災害時の支援体制を万全にすることは急務である。

| 年 | 月 | 災害名 | 活動場所 | 活動内容 |
|------|----|---------------|------|----------------------|
| 2019 | 10 | 台風19号 | 栃木県 | 浴場支援、給水支援 |
| | 2 | 豚コレラ | 岐阜県 | 患畜の処分支援、養豚場の清掃・消毒等 |
| 2018 | 7 | 西日本豪雨 | 広島県 | 危険物の除去（用水路の啓開） |
| | 2 | 福井県北部豪雪 | 福井県 | 除雪作業、物資輸送等 |
| 2011 | 1 | 輪島市水道管破裂による断水 | 石川県 | |
| | 3 | 東日本大震災 | 宮城県 | 行方不明者の捜索、瓦礫の除去等 |
| 2007 | 1 | 福井県豪雪 | 福井県 | 除雪作業、給油支援 |
| | 3 | 能登半島地震 | 石川県 | 給水・給食支援、入浴支援等 |
| 2004 | 10 | 新潟中越地震 | 新潟県 | 給水・給食支援、物資輸送 |
| 1995 | 1 | 阪神淡路大震災 | 兵庫県 | 人命救助、倒壊家屋撤去、給水・給食支援等 |

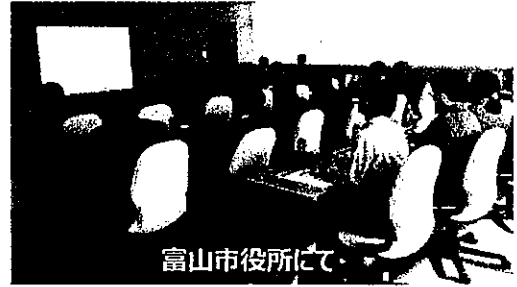
● 11月12日（火）午前：富山市役所【富山市】

1. 目的

公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくりについて視察

2. 総括

公共交通を整備し、街をコンパクトにすることは、高齢者の方々にとってお出かけの足の課題を解決し、歩き主体のライフスタイルを実現できる。その結果、健康寿命の延伸や医療費削減にも繋がるといった副次効果も得られることが判った。



3. 公共交通を軸としたコンパクトなまちづくり

1) 富山市を取り巻く課題

①市街地の拡大と低密度化

⇒ 都市管理コストの上昇と中心市街地の衰退

②過度な自動車依存と公共交通の衰退

⇒ 車を自由に使えない人には極めて生活づらい街

③市町村合併による類似公共施設

④社会資本の適切な維持管理

⑤平均寿命と健康寿命の乖離

⑥CO₂排出量の増大

2) 基本方針

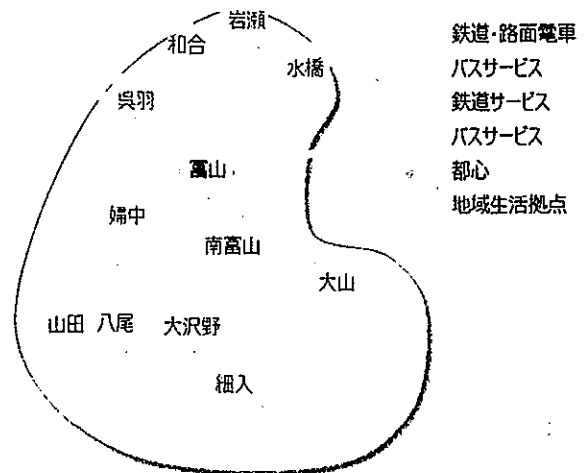
鉄軌道をはじめとする公共交通を活性化させ、その沿線に居住、商業、業務、文化等の都市の諸機能を集積させることにより、**公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくりを実現**

<概念図>

富山市が目指す「お団子と串」の都市構造

串：一定水準以上のサービスレベルの公共交通

お団子：串で結ばれた徒歩圏



<実現するための3本柱>

①公共交通の活性化

②公共交通沿線地区への居住推進

③中心市街地の活性化

3) 事業内容

①公共交通の活性化

LRTネットワークの結成により、過度に車に依存したライフスタイルを見直し、歩いて暮らせるまちを実現



②公共交通沿線地区への居住推進

中心市街地地区／公共交通沿線居住推進地区への居住を推進するため、良質な住宅や宅地を供給する事業者や、住宅を新築・購入や賃貸して居住する住民に対して助成を実施

建設事業者向けの支援

- ・共同住宅の建設費への補助
- ・地域優良賃貸住宅の建設費への補助
- ・業務・商業ビルから共同住宅への改修費補助
- ・共同住宅に設置する店舗、医療、福祉施設等の整備費用への補助
- ・ディスプレイ排水処理システム整備費用への補助

市民向けの支援

- ・戸建て住宅または共同住宅の購入費用等の借入金に対する補助
- ・都心地区／公共交通沿線地区への転居による家賃補助
- ・リフォーム補助

③中心市街地の活性化

中心市街地への集中的な投資は、税の還流という観点からも合理的であり効果的

・新たにぎわい拠点の整備

グランドプラザ、地場もん屋総本店の整備

・おでかけ定期券事業

65歳以上の高齢者を対象に、市内各地から中心市街地へ出かける際に公共交通利用料金を1回100円とする割引制度を実施

・トランジットモール社会実験

道路空間を活用した賑わい創出を目的として、越中大手市場等と連携し、多様なイベントを実施

・自転車市民共同利用システム

中心市街地等に設置された専用ステーションから、いつでも自由に自転車を借りて任意のステーションに返却できるコミュニティサイクルシステムを導入

・公有地を利用したまちづくり

廃校にした小学校の跡地等を活用し、必要な都市機能を民間活力を活かして整備

● 11月12日（火）午後：富山県広域消防防災センター【富山市】

1. 目的

災害対策の拠点について視察

2. 総括

災害拠点の立地を選定する際、「被災しづらい地形であること」および「高速道路や空港などの交通のアクセスが良いこと」を基準に選定されたとのこと。

その条件を愛知県に置き換えて考えると、北名古屋周辺は防災拠点として適した場所であると考えられる。



3. 整備の経緯

1) 消防学校の老朽化と高度で専門的な教育訓練の必要性

前消防学校は築40年が経過し、老朽化が著しく、また教室や訓練施設などの教育訓練機能が不足していたことなどから、消防職員等の人材育成機関としては十分とはいえず、早急な再整備が喫緊の課題となっていた。また、近年の社会情勢等の変化に伴い、複雑化、多様化、大規模化する各種災害に即応できる消防職団員の資質向上を図るため、高度で専門的な教育訓練が必要とされていた。

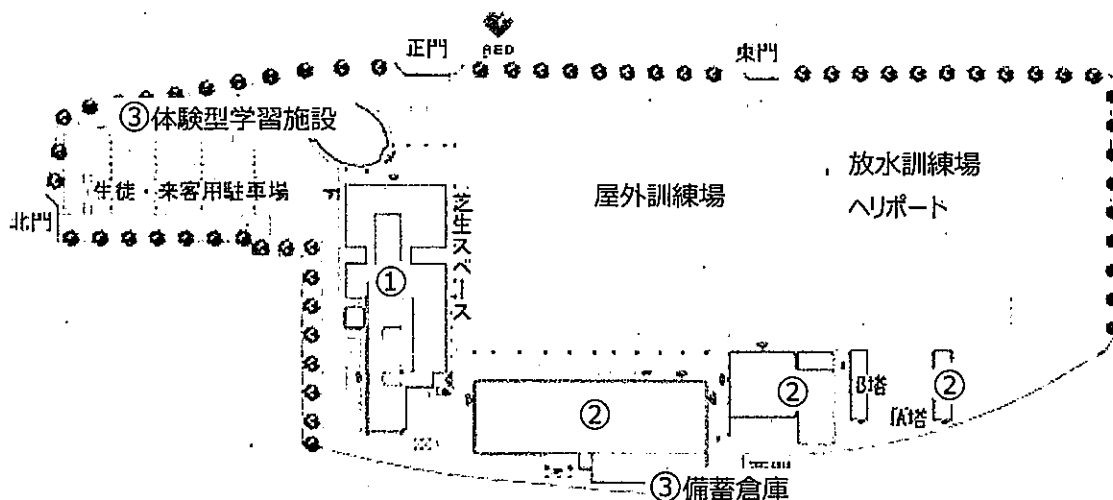
2) 防災拠点施設整備の必要性

平成7年の阪神・淡路大震災をはじめ、平成16年の新潟県・福井県での豪雨災害や新潟県中越地震の状況から、大規模災害時に迅速・円滑な災害対策活動を実施するための活動拠点を確保することが重要とされていた。

4. 施設の概要

1) 建物

- ①管理・教育施設（消防学校教育） + 宿泊棟（定員60名）
- ②訓練施設（屋内訓練棟、主訓練棟、補助訓練棟、水難救助施設、実火災訓練など）
- ③防災拠点施設（体験型学習施設、備蓄倉庫など）



2) 機能

【平常時】 消防・防災関係者の教育訓練・防災訓練、県民の防災教育、災害に備えた食料・生活必需品の備蓄
【災害時】 災害対策拠点（輸送拠点施設、応援部隊受援施設、県対策本部の代替機能）

5. 災害の疑似体験（体験型学習施設 四季防災館）



以上